

礼文山～100名山、最初の頂き～

【報告者】○原

【日時】令和元年5月2日

【天候】快晴

【参加者】I丸・○原

《コースタイム》

0530 利尻北麓野営場-0628 六合目（第一見晴台）-0647 七合目（胸突き八丁）-0723 八合目（長官山）
-0801 九合目-0840 利尻山頂--（下山）--1152 利尻北麓野営場

《 報 告 》

前日の礼文ハイキングで強風にあおられ・・・すっかり弱気になった利尻登山。百名山の冠にしてNo.1で名を馳せる離島の独立峰・・・はたして大丈夫であろう？

【0500】ホテルの送迎車で北麓野営場に到着。登山口のキャンプ場は整備が進んで快適そう。デポしたであろうテントを横目に登山開始。しばらくは林間コースをまったり歩く。前日部屋で痛飲した北海道ワインの残り香を楽しみつつ緩やかな登山道を進む。登山口からしばらく（甘露水あたり迄）は整備された登山道が続く

【0628】第一見晴台（6合目）に至る。林間コースを抜けて見晴らしの良い広場に出る。ここも整備がなされており、火山性の砂利がひかれた広場にはベンチが設置されている。ここか、第二見晴台（6.5合目）でゆっくり朝食をとるとよいかも？

【0647】7合目でまた小休止。ここから先は急な登りが続くのでしっかり休んでいた方がよい。天気は良好ではあるが風が強い。

【0723】長官山山頂（8合目）。ここ初めて利尻岳の山頂が見える。ガスがややかかっているものの切れ間から時々ピークがのぞける。独立峰で風が強いからか？雲の流れが異様に早い。この辺りから早朝出発組の下山と行き交い始める。この先、9合目手前に避難小屋（利尻山小屋・携帯用簡易トイレ付）がある。中は快適そのもの。荒天時以外の使用は禁止とのこと。

【0810】9合目は開けた広場に最後の携帯用簡易トイレがある。（写真下）用をたすのはここが最後となる。ここまでは急な登りがあったものの、一般登山道なみに整備が行われているのでさほど心配いらぬ。9合目から山頂にかけては、脇が切れ落ちたザレ場、それから続く底の見えぬ雪渓があり強風にあおられ転倒したら滑落する可能性がある。慎重な足はこびが必要である。同行の10年前に同じルートを踏んだI丸氏曰く、これでもかなり整備されて登りやすくなったとのこと。なるほど、確かにザレてはいるものの、所々に砂利に埋もれてはいるが階段が整備されている。

【0840】9合目から30分、ようやく山頂に至る。運よくガスが晴れ360度のパノラマを目にすることができた。眼下には島を覆う緑、その向こうには紺碧の日本海に浮かぶ礼文島が見渡せる。お互い記念撮影などをして暫く休憩。標高2000mに満たぬ山ではあるが登山口が300mと低いため標高差がなかなかあり、登りごたえがあった。

下山中、至る所に咲き乱れる舞鶴草に歓喜しつつ撮影大会に励む。やはり利尻礼文は花の島であった。

【ワンポイント】

- ・携帯トイレ必携！
- ・トイレは「登山口→6.5合目→避難小屋→9合目」の4か所のみ。登山口以外は携帯トイレブース
- ・山頂の景観を期待するなら早朝出発。遅くなると山頂がガスの。
- ・お花畑目的であれば今時期（5月前半）がお勧め